

③9 城山北公園線 都市計画街路事業

授賞機関 島根県 松江県土整備事務所

キーワード 道路デザイン、イベントの創出・開催、まち歩き

全建賞審査委員会の評価ポイント

地域住民、県、市の連携・協働によるみちづくり。地域住民やアドバイザーの意見を取り入れながら道路のデザイン計画について検討を重ね、舗装材や街路灯、ポケットパーク等の高質な空間形成が図られるとともに、街路空間を活用したマルシェの開催など、地域の活性化に貢献している点が評価された。

1. はじめに

国宝松江城の大手前からくにびき道路まで続く城山北公園線（通称：大手前通り）は、松江市街地の内環状道路として位置づけられており、車道の4車線化、歩道の拡幅、電線類の地中化により、自動車交通の円滑化や幅広の歩道による安全安心、快適な歩行空間の確保を目的として整備が進められ、15年の歳月を経て平成30年8月に完成した。

2. 事業の概要

本事業は計画段階から、地域住民・島根県・松江市の連携・協働によるみちづくり・まちづくりを進めており、地区懇談会やまちづくり協議会、ワークショップ等の様々な会合や話し合いの場を設け、多くの意見やアイデアを抽出している。平成18年の「大手前通りみちづくり委員会」では、地域住民のほかに専門的なアドバイザーを交え、都市景観、医療福祉、歴史、商業、観光などの観点から活発な議論が交わされた。その後も、平成24年の「大手前通りみちづくり協議会」では、みちづくり委員会での成果をもとに「まちと調和するデザイン」「親しまれる道路空間づくり」「歴史資源の活用」を目指して、行政と地域住民が一体となって道路デザインを検討し、決定している。

3. 事業の成果

城山北公園線の完成により街路空間を使った様々なイベントが開催されており、代表事例として平成30年12月から開催されている国宝松江城マラソンがある。全国から約5,000人のランナーが参加し、約1kmの「大手前通り」が疾走するランナーで埋め尽くされた風景は、他に類を見ないものとなった。また、城山北公園線の一部区間を歩行者天国として開催した「山陰いいものマルシェ」では、その空間に多くの屋台が出店したほか、沿道の商店が一体となって地域特産品を販売、PRするなど、

現在も様々なイベントが創出・開催されている。



「山陰いいものマルシェ」（平成31年3月）開催の様子

このほか、事業に伴い大規模な埋蔵文化財調査を行ったところ、消滅していたと考えられていた松江城下町の遺構が良好な状態で残っていることが分かった。歴史資源を活用し、まち歩きに繋げるため、この調査で明らかとなった当時の町の様子や人々の暮らしぶりを紹介する歴史案内看板を設置し、この看板を巡ってまち歩きを楽しんでもらうよう「歴史探索マップ」を作成し、松江市内の観光各所で配布している。また、沿道に設置した5箇所のポケットパークには、松江城の石垣に見られる刻印の入った石や6種類の刻印のレプリカを設置しており、地域ではこの刻印を巡るスタンプラリーイベントも開催するなど、歴史の継承にまち歩きの促進と合わせる形で取り組んでいる。



ポケットパークに設置した遺構と歴史案内看板

4. おわりに

現在、国宝松江城を中心としたまちづくりイベントが道路空間を利用して数多く創出・開催されている。平成から令和の時代に引き継がれた本路線が、今後、一層の地域活性化に貢献することを期待する。